

## 平成18年度第一回関東地域アライグマ防除モデル事業調査検討会議事概要

日時:平成 18 年 12 月 22 日(金)13:30～16:00

場所:ラジオ日本クリエイト A 会議室

出席者

### < 委員 >

安藤 元一(東京農業大学助教授)

池田 透(北海道大学助教授)

石井 信夫(東京女子大学教授)

金田 正人(生物多様性 JAPAN、三浦半島自然誌研究会)

羽山 伸一(日本獣医生命科学大学助教授)

山口 千津子(日本動物福祉協会動物担当)

### < 関係機関 >

農林水産省関東農政局

神奈川県環境農政部緑政課

葉山町福祉環境部環境課

逗子市環境部緑政課

相模原市環境保全部みどり対策課

東京都環境局自然環境部計画課

東京都産業労働局農林水産部食料安全室

東京都産業労働局農業振興事務所振興係

東京都環境局多摩環境事務所自然環境課

町田市環境・産業部農業振興課

### < オブザーバー参加 >

近畿地方環境事務所野生生物課

群馬県環境・森林局自然環境課

埼玉県環境部みどり自然課

千葉県環境生活部自然保護課

静岡県環境森林部自然保護室

### < 事務局 >

環境省自然環境局野生生物課

関東地方環境事務所野生生物課

(株)野生動物保護管理事務所

## 議事概要

### < 関東地域アライグマ防除モデル事業について >

資料1でモデル事業の内容について説明。

委員・関係機関からの主な意見等（・意見質問、事務局回答、委員発言）

- ・ 今年度の検討課題の中に、捕獲個体の処分方法の検討があるとのことだが、この図（調査実施フロー図）の中ではどこに当たるのか。

今日配布したフロー図は当初計画時点のもので、捕獲個体の処分方法の検討は含まれていないが、昨年度の当検討会の内容を受けて、今年の事業の仕様書の中には加えてある。

### < (2) 関東地域のアライグマの分布について >

資料2でこれまでに集めた情報を説明。

委員・関係機関からの主な意見等（・意見質問、事務局回答、委員発言、オブザーバー発言）

- ・ 今回のアンケートでは過去の情報も含めて記入するように要請したと思うが、神奈川県は平成12～16年のアンケートでは回答されていて、今回のアンケートでは上がってこなかった地域は、過去に生息していたが、現在生息していないことを示しているのか。それとも、今回のアンケートでは得られなかったということか。

市町村の担当者には、今まで生息していたメッシュを挙げてもらっているため、いなくなったということではなく、把握されていなかったということになる。

比較的生息情報が多かった静岡県河津町について、町の担当者に確認したところ、何かわからない動物の被害や目撃情報を、アライグマの可能性のあるものとして報告したと聞いている。地元の狩猟者に確認してもアライグマの目撃情報は得られなかったため、県としては、アライグマが河津町に生息しているとは判断していない。もう一点、静岡県北部のメッシュは、明らかにアライグマの目撃情報だが、数年前の情報であり、その後連続した目撃はないとのこと。由比町の2点のメッシュのうち、1点は今年捕獲されたものだが、飼われていた個体が遺棄されたものであると考えている。静岡県では、確実に野生化しているという情報はまだ把握していない。今回は県の東部だけであったが、西部についても飼育された個体の遺棄は確認されているが、東部同様、確実に野生化しているという情報は無い。

- ・ 確実にいると思われている場所で、情報がない箇所がいくつかあるが、そのような未回答箇所を、どのようにフォローするのか。これを埋めるような作業を、これから考えているのか。また、資料2の5ページの表で、回答はあったが情報がない場所と未回答の場所は、区別して表さ

れるべきである。

未回答市町村で、おそらく生息すると思われる地域については、回答を再度お願いしようと考えている。

アンケート調査を行う前からアライグマの分布が広がっているだろうことは予想していたが、埼玉県のように予想外に情報が集中する地域があることも明らかになり、急遽全国調査を実施することにした。全国展開を図る上での要望があれば、可能な範囲で対応したい。

今回のアンケート調査票にある「野生化したアライグマがいるか」という質問は誤解を招く。アライグマが過去を含めて、いたか、いなかったか、ということをまず確認し、そしてその情報の根拠や時期を聞く。その次に、現在野生化している個体がいるかどうか、という流れにすべきではないか。

アンケート内容はまだ検討中。本日お越しの委員の方々ともご相談し、詰めていきたい。ただ、全国調査では、地方別の調査と違って、取れる情報のレベルをどこに設定するかという問題がある。最低限こまでは、というものを設定し、それが獲得できるような形にしなければならない。そのためにどのように行うか考えていきたい。

数年前、環境省で中・大型哺乳類の全国分布調査を行ったが、できればあのレベルぐらいは維持して欲しい。

今回も生物多様性センターで、基礎調査の一環という形で行う。前回の調査もふまえて何をするかというところを、当然考えた上で、対応していきたい。

今回の関東のアンケート調査では、すでに生息が確認されている地域で生息情報が得られていないケースがある。過小評価にならないように、生息している可能性があるものを、最大限拾い上げるような形でのアンケートにしていきたい。

先ほどの静岡県の例のように不確実な情報はやがて徐々に正確になっていく。怪しい情報もなるべく拾い上げていくようにしたほうがいい。

参考にさせていただく。ただ、アライグマかどうか判断しかねる場合に、過剰な危機感や不安感を煽らないように、注釈をつけるなどの工夫をして表したい。

全国でデータを取るのは非常に重要なことだが、どの地域でも同じようなレベルで集めることは非常に難しい。アンケートをする側が、一つ一つの情報の正確さを確認できるようなレベルをつけて、判断するときに取舍選択できるような方法も考えたほうがよい。たとえば、いる・いないの二者択一でなく回答者当人に確信度をつけてもらうなどの工夫が必要。

#### < 逗子・葉山モデル事業調査結果について >

資料3でモデル調査結果について説明。

逗子・葉山モデル事業調査結果について委員・関係機関からの主な意見等

(意見質問、事務局回答、委員発言)

- ・ 撮影頭数が標識地域で減っているにもかかわらず撮影率が変わっていないというのは、除去

した効果によって、同時撮影個体数が減っているという意味だけではなく、捕獲している時期から群れがバラバラになっているということは考えられるか。

成長にしたがって分散が起こってくるということと時期的に一致すればあり得る。

- 場合によっては、捕獲されたことで頭数が減っているということが、過大評価になる可能性もあるのではないかと。

あり得る。生態的な細かい評価についてアドバイスをいただきたい

分散に関してはまだデータがない。北海道でのテレメリー調査の結果、11月までは少なくとも子連れで歩いていたので、関東でこの時期に分散するのは、まだ早いのではないかと。除去地域の中では、捕獲の効果があったと考えて良いのではないかと印象は持っている。

- そもそも撮影頭数や撮影率が、3つの時期において統計的に意味のある変化を示していると言えるのか？数値的には、撮影率で言っても、約10%程度なので、場合によっては有意な差ではないのではないかと感じた。

統計的な検証まではしていない。今後の課題として検討する。

- 除去することによって、農業被害など変化があったのか。また、捕獲された個体は、山間の個体と里の個体とでは食べるものが違うのではないかと予測されるが、そのあたりの知見があればご教示いただきたい。

捕獲個体の胃内容物の分析まではしていない。昨年度に神奈川県が横須賀市の大楠山で行った事業で胃内容を調べたところ、農地から少し入ったところで捕獲された個体からは作物はほとんど出なかった。被害の変化については、捕獲と並行してデータを取っていない。

農業被害と生活被害は、この時期1ヶ月くらい、顕著に効果が現れたということは特にないと感じている(葉山町担当者)。

- 捕獲結果については、今のところ成獣と幼獣と一緒にまとめているが、捕獲数が少ないので分解するとわからなくなるかもしれないが、もう少し細かく分析すべき。全頭捕り尽くしはできなかったようだが、これが捕獲効果の一つのベースになるであろう。
- 捕獲を実際に行ってみて、これだけ多くのワナで集中的な捕獲作業を、生活被害や農業被害が出ていない場所で行える機会はあまりない。先ほどの事務局の説明では、実際には捕獲した個体の倍は生息しているという印象とのことだったが、捕獲に際して、改善点や反省点があれば実際の作業を通じて参考になるような情報を集約できれば、マニュアル作りに有効なのではないか。
- どのような場所で取れるのか、というような地形的な要因や、周りの状況についても、もう少し分析できるのではないかと。効率よく捕獲できる方法を検討する材料になるのではないかと。

#### <相模原・町田モデル事業計画について>

資料4で事業計画について説明

相模原・町田モデル事業計画について委員・関係機関からの主な意見等

- ・ 図1では、11月16日までの情報を提供したが、その後の通報は一件もなかったが、JR橋本駅周辺の市街地で、アライグマらしきものが捕獲されたという通報があり、現地で確認したが、ハクビシンであった(相模原市担当者)。
- ・ ここ数年この場所にセンサーカメラを設置している方によると、相模川沿いで、よくアライグマがカメラに写っているとのこと。また、聞き取り調査をしたが、生息情報がなかったというデータも示していただきたい。

安藤委員らの聞き取り調査で、生息情報がないと言われたエリアを掲載し忘れたため、後日盛り込む。

- ・ 相模川沿いではアライグマはすでに定着しているとのことだったが、町田市の丘陵地はどのような状況か？

捕獲情報や目撃情報やカメラトラップなどの情報が重なっており、また複数の年度に得られているので、現段階では定着していると判断している。

- ・ 現段階では、町田市と相模原市にまたがって定着している場所は無いとのことだったが、それぞれ別々に定着している場所がある。このまま放置しておく、別のエリアにも入ってくる可能性があるとのことだが、この事業は、特に県境をまたぐ連携をどのように行っていくかということを検討するのが一つの目的であるため、両市の連携が課題である。今のうちにその体制を作っておくことが重要。そのような計画があるのかどうか。また、相模原市と町田市の担当の方はどのようにお考えか。

相模原・町田地域で連続してアライグマが生息するかは不明。事務局としては、あるエリアで捕獲をした場合に、他のエリアでは何が可能か、何かネックになることはあるか、検証してみることが必要と考える。ある程度近接した場所で一方で捕獲できる場所があれば、そこをモデルケースにしてもよいのではないかと考えている。今年全部できなくても、来年にかけて行うことも可能。

- ・ 相模原市では、来年度は市民に積極的にPRをし、目撃情報があれば積極的にお知らせいただくよう、促す予定。全額市の負担でワナを設置することを検討中。神奈川県防除事業とも協力体制を持って進めていきたい。現状では、野生生物の被害が寄せられても、捕獲の許可は出すが、対応は自分で行ってもらうように伝えているため、市民側も市に連絡をしたがらない可能性がある。アライグマについては、生態系への影響等についても積極的にPRしたい。この事業で行われるトラップと、市に寄せられた通報によるワナを一体的にデータを提供できれば、と思う。
- ・ 町田市農業振興課では、農業被害が出ている場所でアライグマやハクビシンを捕獲しているのが現状。一般生活面での被害は、環境保全課から自己対応をお願いしている。この2つの課で連携を取りながら行っている。今後は市の広報でのPRなどはまだ考えていないため、調整して対応したい。
- ・ 事務局の発言では、市の境界では分布していないように見えるとのことだったが、町田市の丘陵部と相模川の距離では、十分に個体は移動できるのではないかと考える。

- ・ 図1では繋がりが無いように見えるが、行き来している可能性があるとのことであるため、情報交換をして、共同で作業を進めるということも、検討していただきたい。
- ・ この距離だと、行き来をする可能性があると考えている。相模原市・町田市の両市で積極的にこの問題を扱っていただけたらとのことだったため、十分な連携を取っていただきたい。低密度地域での捕獲は費用や労力がかかる作業になるため、全体を通してワナの捕獲でそういう地点があったかという情報を集めながら、ワナのかけ方を工夫していくのと逆に、こちらから探りを入れてどう分布を明らかにしていくか、検討していただきたい。
- ・ 逗子・葉山では、行動を把握するために放獣していたが、相模原 町田の事業では行わないのか。  
行方予定はない。

#### 全体を通しての質疑応答・討論

- ・ 今後、どのような形で検討結果が公表されるのか。事業の中では一部放獣したり、取り尽くしには至らなかったという内容があるため、内容を公表するにあたっては、それなりに準備が必要になる。

この検討会を開催するにあたって、検討会と資料は公開であると申し上げた。年度ごとに整理をするほうがよいと思うが、今後の調査のでき次第であるため、特に相模原 - 町田の状況も含めて、調査を進めてから今年度について判断をしたい。

- ・ 神奈川県ではすでに防除実施計画を作って、具体的な目標捕獲頭数を各市町村に示して捕っていただく方針で進めているが、逗子・葉山から得られたデータは、想定をはるかに超えた高密度である。これがこのまま一人歩きされるのは非常に怖い。特殊な例なのか、これが普遍化できるのかということが、全く検証されていないため、公表にあたっては配慮が必要。来年度も同様の調査が行われるとすれば、もう少し調査範囲を広げたり、調査結果については検討の余地があるのではないかと感じる。去年、神奈川県が防除実施計画で出された密度が過小評価であることはあらかじめわかっていたが、今後それらをどのようにすりあわせていくということも合わせて、マニュアル化するときに検討していただきたい。

公開するにあたって、会議の資料での扱いにご要望があれば、後ほどご意見をいただきたい。HP上で公開するときは、注釈をつけるなど工夫する。また、マニュアルを作成する際には、改めてご相談させていただく。

- ・ 年度内にもう一度開催されるが、その中で最終年度である来年度にどのようなことを実施するかを詰める予定。
- ・ この事業はマニュアルの作成を目指しているが、既存資料の整理の中で、早い対応がいかにか重要か、問題を放置した場合にどのようなことになるかを、もう少し具体的に明示した部分があった方がよいのではないかと感じる。既存資料が中心となると思われるが、整理を念頭に置いていただきたい。

閉会